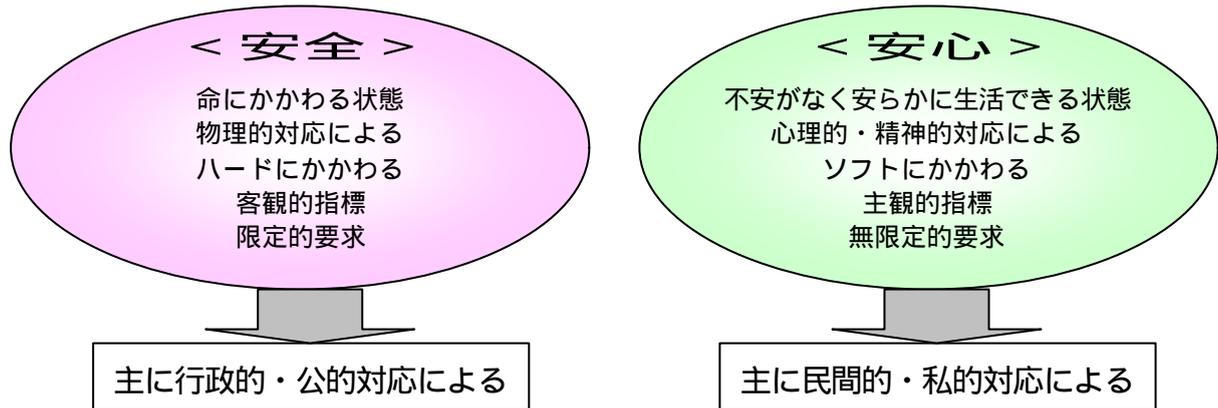


安全・安心のまちづくり^注

児玉桂子、小出治 編著

1.安全・安心の視点

「安全」と「安心」の使い分け



安全・安心を問う意味 「安全・安心」ということばを導入し、「安全・安心」を問う意味は、これまでの主に行政が担ってきた「安全」の確保を、「安心」感を伴う「安全」の確保という概念で見直すことと理解すべき

安全・安心の視点の効果 安全・安心という新しい視点が示されて、市民にとってまちづくりがより身近なもの、親しみやすいものとなり、『多様なテーマ』について『横断的・総合的』に『自分たちが取り組んで』進めているものだという認識・期待が高まった

安全・安心の方法

「安全・安心」の方法を考えることは、「ほんとうの『安心』」の方法を考えること

【「安心」の方法】

目的の共有	説明つきの情報公開	訓練による裏づけ
市民の安全確保という目的が行政と市民の間で共有されている	安全に関する情報が十分な説明とともに公開され、行政と市民の間で共有されている	情報に基づく判断能力、対応能力が訓練などで確かめられている
市民が自ら対策を考える場が保証される必要		

^注 「安全・安心のまちづくり」新時代の都市計画第5巻（ぎょうせい）より第 部第1章部分を抜粋・編集

2.多様な生活と都市空間

安全・安心の確保とまちづくり

都市の規模や姿形に応じた安全・安心という視点からの都市計画が、短期的にも長期的にも必要とされているし、つねに変化する都市に対応できるやり方が求められている。

都市なればこそそのリスク

自然だけでなく、自然と人工物の組み合わせが生むリスク、人工物が生み出すリスク、人工物と人が生み出すリスク、人が生み出すリスクという多様なリスクに対応しなければならないのが都市という空間。

どんな規模か、その姿形は

都市のスケールや構造を考える中で、都市全体のリスクと対応策が見えてくる。復興しやすい都市構造とは何か。安全・安心なまちづくりにふさわしい都市構造とは何かを自分たちの都市ならではの手法で考えたい。

誰もが自由にどこへでも行けるまち

モビリティ(移動)の保証は、安全・安心のキーワードの一つ
都市空間は、一つひとつの施設内が便利で、安全・安心であることが大切なのはもちろんだが、その一つひとつの施設に人々が安全・安心に行けなければ、機能しない無用のものになる。

車社会をどう考えるのか

道路と駐車場とまちの位置、代替機能としての交通機関、サービスの提供、守りたいもの、近隣との関係を眺めつつ、ある期間、車規制を試み、実験をしつつ、話し合い、考えあう中で、安全・安心なまちと車の関係を選んでいくこと。

安全・安心なまちは美しい

安全・安心なまちは、美しいまちであり、そこにこそ住みたいと考える人が多くなった。
花や緑、緑地や公園は、美しい景観を構成する要素であると同時に、それ自体、防犯や防火対策の武器ともなる。

安全・安心まちづくり拠点

安全・安心は、課題として考えれば、きりが無いほど広いテーマで、誰かが一方的に頑張っても解決しない。
都市の全体構造や機能、組織などを把握している行政が支援体制を持ちつつ、人が集いあったり、考えあったり、活動する場としての拠点が必要となる。

3.自立型社会のネットワーク

21世紀の都市成熟型社会においては、従来の「問題解決型の都市計画」から、市民が主体となって、それぞれの都市に暮らし、働くことの楽しさや喜び、時には悲哀さえも感じられるような「魅力創出型の都市計画」が求められている。

安全・安心まちづくりは、個々に自立した市民が主体となり、「みずからの生命、財産、生活は自分たちの手で守る」という活動に取り組み、相互にネットワークを構築して初めて実現する。